

# ひびき



放送局での番組制作のようす。



パンジーメディア(Pansy Media) URL:pansymedia.com  
番組制作にはパンジーの当事者と職員が共同で当たります。番組出演者は全員知的障害者。カメラマン、音声は当事者を職員がサポートします。  
放送は毎月1本。第3金曜日にインターネットでアップしています。パンジー以外の人からも番組企画を受け付けています。

番組制作の過程で、当初は予想もしなかった様々な発見や驚きがありました。「私の歴史」に出演したことなどがきっかけで、それまで自分の意見を言えなかつた当事者が、自分の思いをみんなに伝えはじめました。映像を見た当事者たちからは、「私も出演したい」という声も多く上がつてきました。

何が彼らを変えたのだろうか。

完成試写で映像を見ている当事者の反応に接して、「映像の中に、これまでと違った自分を発見」しているのではないかと思いました。差別や偏見の体験から自分を否定的に見ていた当

事者が、一歩外に踏み出して、自分を肯定しあじめたように感じました。

社会の人たちの知的障害者への差別や偏見はどこから生まれるのだろうか。

昨年7月、神奈川県相模原の入所施設で起きた悲惨な事件。このときマスコミは当事者の声を伝えることはほとんどありませんでした。

知的障害者の思いや考えが社会に伝わらない。そして彼らのありのままの姿が見えない。それが一つの原因かもしれません。

この一年、彼らと映像制作の活動を行つて、ますますその思いを強くしています。



**おがわ・みちゆき**  
1947年香川県生まれ。TV番組のディレクターとして世界110か国以上を訪れ、自然をテーマに多くの作品を監督。また、NHKで「最期のひばり」「満映映画人秘められた戦後」「山本五十六の真実」など様々なジャンルの番組を手がけている。知的障害者の日常を描いたドキュメンタリー映画『あいむはっぴい!と呼びたい』監督。NPO「国境なき子どもたち」設立に関わる。

事者が、一歩外に踏み出して、自分を肯定しあじめたように感じました。

社会の人たちの知的障害者への差別や偏見はどこから生まれるのだろうか。

昨年7月、神奈川県相模原の入所施設で起きた悲惨な事件。このときマスコミは当事者の声を伝えることはほとんどありませんでした。

知的障害者の思いや考えが社会に伝わらない。そして彼らのありのままの姿が見えない。それが一つの原因かもしれません。

この一年、彼らと映像制作の活動を行つて、ますますその思いを強くしています。

## 私たちは発信する

映像ディレクター 小川道幸

1年前、取材で訪れた東大阪のクリエイティブハウス「パンジー」で、「僕たちも映像をやつてみたい」と当事者から話しかけられました。それをきっかけに始まったのがインターネット放送局の立ち上げです。これまで自分たちの思

ドラマの撮影場面です。入所施設で虐待を受ける入所者を演じているのは知的障害を持つ人たち。プロデューサーや原作者も障害のある当事者です。

「カット」

「もうできないよ!」

「まじめに作業しなさい。そんなにイライラするなら頭冷やしてきなさい!」

「用意、スタート」

も初めて。まったくゼロからのスタートでした。

5ヵ月間、撮影や自分の思いを表現するなどのワークショップを重ね、当事者が発案したドラマのショートムービーもつくりました。どの作品も自由でユニークな発想に驚きました。

昨年9月に第一回放送を立ち上げ、今年の一月には第5回放送の番組が仕上がりました。およそ5分の中に、知的障害者が自分の体験を語る「私の歴史」、当事者の休日に焦点を当てた「地域にくらそう」、当事者が様々な世界に触れる「パンジーカフェ」、その時々のニュースや対談など盛りだくさんの企画が詰め込まれています。

放送局の名前は「パンジーメディア」。番組のタイトルは「きぼうのつばさ〜私たちもひとりの人間〜」です。

いや考えを社会に発信する機会がほとんどなかった知的障害者が、映像を使って発信しようという日本で初めての試みがはじまりました。

最初に取り組んだのはカメラの操作から。興味をもつた25人の当事者が集まりました。ほと

んど人がビデオカメラを持つのも撮影するのも初めて。まったくゼロからのスタートでした。

5ヵ月間、撮影や自分の思いを表現するなど